

## 主は私の受ける分 - The Lord my Portion ウォッチマン・ニー

11月1日

しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して  
渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の  
うちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。【ヨ  
ハネ 4:14】

外から入ってくるものは何であれ、人を真に満足させる役  
には立ちません。しかし、もし、誰かがキリストを受ければ、  
それは、その人の内で泉となり、その人は日々、満足を得  
ることができます。人間に欠けているものは内なる満足で  
す。

ある時、ある人が医師の元を  
訪れました。その人は医師に、  
なぜ人生は無味乾燥で、希  
望がないのかと尋ねました。  
診察の後でその人は、医学  
的にはどこも悪いところがない  
と知らされました。そこで、  
その男はこれほどひどく落ち  
込んだ気分を癒してくれるも  
のは何かないかと尋ねました。  
医師の答えは、『人生を楽し  
みなさい。あのおもしろい道  
化芝居でも見に行ったらどう  
です？人を大笑いさせて、すぐく  
明るくしてくれますよ』。す  
ると、その男が言うには、『実  
は私がその道化師なんです』。  
そして彼は続けて、『他の人を  
笑わせることはできても、自  
分は笑えません』。なんと悲しい  
ことでしょう。しかし、この  
世が与えてくれるのはこの程  
度のものです。ほんのちよつ  
と笑わせて、その時だけ喜ば  
せてくれますが、それで終わ  
りなのです。

11月2日

また彼らが…、おのおのその兄弟に教えて、『主を知  
れ。』と言うことは決してない。小さい者から大きい者に  
至るまで、彼らはみな、わたしを知るようになるから  
ある。【ヘブル 8:11】

砂糖と塩は見た目はよく似ています。どちらも白く、細かい  
粒でできています。しかし、自分の口に入れてみるまで、ど  
ちらが砂糖で、どちらが塩かは分かりません。砂糖か塩か、  
外から見た目だけで判断するのは、舌で味わって内側で  
判断するより、はるかに劣ります。これは、神に対する知  
識も同じです。外から入ってくる知識は、在り来たりのもの

であり、中に向かう知識は確かなものです。神が私たちの  
内側でご自身を味あわせてくださるときはいつも、言葉に  
できないほどの喜びがあります。『主のすばらしさを味わ  
い、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける  
者は(詩篇 34:8)』。神様を私たちが味わうとは不思議な  
言い方ですね。でも、これは真実です。『一度光を受けて  
天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、  
神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力と  
を味わったうえで…(ヘブル 6:4-5)』。これは、霊的なも  
のであっても、実際に味わうことができることを示していま  
す。新しい契約の特徴は、霊的なもの、神ご自身までも  
私たちが味わうことができることです。ですから、神に感謝  
しようではありませんか。なんと祝福でしょう。なんと光  
榮なことでしょう。ハレルヤ！

11月3日

ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。  
わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデ  
スの門もそれには打ち勝てません。【マタイ 16:18】

誰もが、こんな経験をいくらかでも、証しすることができるし  
ょう。大きな困難に遭遇した時、信仰も祈りも助けにならな  
かったが、ある日、立ち上がってこう宣言した時、それを乗  
り越えて勝利にいたる道筋が示された；『イエスよ、あなた  
は主です、あなたは王です、あなたはすべての悪魔を足元  
にひれ伏させました、そしてあなたは、敵のすべての業を  
打ち破りました！』。こう宣言するやいなや、その者たち  
には不思議な力が与えられました。このような状況では、最  
良の祈りとは何かをお願いする祈りではありません。最良  
の祈りとは、はっきりと宣言することです。『あなたがそう  
です！』、『あなたこそがそうです！』、これが教会における信  
仰の宣言になります。教会は神の黙示のみから作られて  
いるのではなく、人間が受け取った黙示を宣言すること  
によって作られています。黙示の結果としての宣言は霊的な  
価値に満ちています。そこにはハデスを揺さぶるほどの霊  
的な力があるのです。

11月4日

ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご  
覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』その主  
人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。  
【マタイ 25:20-21】

儲かった5タラントは成功を表すものではありません。むしろ、  
このしもべが良く忠実なものであることを表しています。  
外見から言えばステファノ(使途 6-7)は力が全く足りない

ように見えていたかもしれませんが、それでも、霊的な現実においては彼は、良く忠実な働きをしました。従って、もし一杯の冷たい水がキリストのために捧げられれば(これこそが忠実さです)、それは報われます。忠実であるとは、何かを主のために行うことを意味します。私たちは本当は誰のために働いているのでしょうか？よく、私たちは成功を求めますが、主のための成功でなければ、それは木、草、切り株に過ぎないことが分かっています。主は忠実さを求めておられます。

11月5日

ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができますか。ご存じのように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです【士師記 6:15】

神の前にへりくだるのは比較的易いことです。しかし、他の人の前にへりくだり、自分よりも優れている者として敬意を持つことは、非常に難しいものです。『自分が小さいものです』と言うのは、どちらかと言うと簡単ですが、父の家で自分が一番若いと告白するのは簡単ではありません。自分の父の家がもっとも貧しいと告げることは、それほど困難なことではありませんが、自分の父の家がマナセで最も貧しいことを認めるのは、きわめて屈辱的なことです。顔から、自分でも知らないのに輝きを放っている者、それでも他者からは落ち着いた光を認められるものこそ勝利者です。自分の顔が輝きを放っているかを確かめようとして、鏡を見るようなものは、誰一人として勝利者ではありません。ダビデは油注がれたものでありながら、自分自身を死んだ犬とみなしました(1サムエル 24:14)。勝利者とは、真に勝利を得たもののことであって、勝利者と名乗っている者のことではないのです。

11月6日

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです【ピリピ 2:13】

ある姉妹がいました。この女性は、良心を徹底的に糾弾されていたので、自分には神の御心も必要ないし、もう神に従うことも決まらないうと決めていました。この女性は、ただ死刑判決を待っているような、深い苦悩の中にありました。そのような時、彼女は自分の中で祈りをしました。彼女は神にささやきました、『ああ、神様、私にはあなたの御心を求めることはできませんが、どうか、あなたに従いたいと思えるようにしてください。』不思議なことにこの日、ピリピ書 2章 13節の言葉が、彼女を支えました。神が心に働

きかけてくれなければ、自分にはこんな祈りをできなかったことを理解し始めたのです。神ご自身がこの女性の内側にこのお祈りをするように働きかけたのですから、間違いなく神のおかげで、この女性は主の喜びを求め、そのために働くようになったのです。神はご自身の御心にこの女性が従えるようにしました。これが神の働きの目的だからです。この女性はそれを見て、立ち上がり、喜びに満ち溢れたのです。

11月7日

何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるといふこと、これこそ神に対する私たちの確信です。【Iヨハネ 5:14】

信者が何かを欲しいと思った時は、常に初めにこう訪ねるべきです：これが欠けていると神に影響するだろうか？私が欲していることを、神は望んでいるだろうか？私の欲求をかなえることは神の御心だろうか？あなたの欲求をかなえることが神の御心であると分かったら、必要なものを備えて御心をかなえてください、と頼んでもよいのです。神の御心を知るようになったからには、あなたがしているその御心に合わせて祈らなければなりません。御心になるようにと祈ってください。もはや、問題はあなたの願いがかなえられたかではなく、御心がなつたかどうかになります。今日のあなたのお祈りは過去の祈りとそう大きく違わないかもしれませんが、それでも、今ではあなたが求めるものは、自分の特定の問題に関して、御心が成されるようにという点に移っており、自分自身の欲求が満たされることではなくなっています。

11月8日

だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です【マタイ 10:31】

どれほど小さなことであっても神は自分の子らに対して無関心ではありません。ある時、夫婦が海を渡っているときに嵐に遭いました。妻は恐れおののきましたが、夫の方は荒れ狂う海をまったく落ち着いた様子で眺めていました。夫の様子にいらだつた妻は、彼を叱り付けました。すると、夫はナイフを取り出し妻を殺すようなふりをしました。しかし、妻はまったく恐れている様子を見せませんでした。夫が、なぜ怖くないのかと尋ねました。妻の答えは、ナイフが夫の手にあつたからというものでした。それで、今度は夫のほうで、なぜ嵐を恐れないか説明できたのです。それは、父なる神の御手の中にあつたからです。

11月9日

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。【ローマ 6:6】

もし、罪の力から引き離されて、罪の奴隷でなくなりたく望むなら、自分のからだに打ち勝たなければなりません。ローマ書 6:6 の中で、この使徒は主が、からだの強固な支配から私たちを引き離して下さったかを明らかにしています。主イエス様は私たちの内なる古い人を自分とともに十字架につけることによって、私たちの罪のからだを滅ぼしました。『滅びた』(または、『破壊した』)にあたるギリシャ語の原語は、『休止させる、機能しなくなる、動作しなくなる、動きを止めさせる』などを意味する言葉です。主が十字架で成し遂げたみ業によって、主イエス様は私たちの罪の体の働きを止め、罪の奴隷の立場から開放してくれました。それでも、体は存在しており、完全に滅ぼし去られわけではありません。ただ、生理的な構造に起因する欲望が、主の力で、その働きを弱められていることを発見します。私たちは皆、十字架を通して勝利を得るのです。

11月10日

彼らは、その知性において暗くなり、…神のいのちから遠く離れています。【エペソ 4:18】

初めは、神はご自身の命と敬虔な信仰に関わるもの全てを、私たちに与えてくれることを計画されました。私たちの罪と、罪から来る死のゆえに、私たちは神から遠く引き離され、神に属するあらゆる物を得ることはできなくなりました。神が与えてくれたもの、またこれから与えようと考えていたものすら、失われてしまいました。しかし今では、主イエス様が流された血によって、私たちの罪はきよめられ、神との関係は修復されました(エペソ 2:13)。こうして、神がくださった物、これからくださる物は何であれ、遮られることなく私たちの下に与えられることになりました。主イエス様の血は私たちを神と和解させてくださり、また、私たちに神ご自身を与えてくれたのです。

11月11日

夜中の三時ごろ、湖の上を歩いて、彼らに近づいて行かれた。【マルコ 6:48】

私たちが、今のままでいるか、それとも変わるか、主は見ておられます。主は私たちが前に進むか、後ろに戻るかを、見極めようと待っておられます。主の目は私とあなたに向いています。主は私たちが行く道の一步一步に目を留められます。主は、私たちに降りかかる誘惑がどれほど大きく、私たちの状況がどれだけ困難なものかを良く知っています。それでも主は夜中の3時を過ぎて、苦しみを長引かせようとはなさいません。暗闇が最も濃い時間になると、主が来られます:主はまだ私たちのために死んでいないから、そして、私たちの苦難を知っていて、まだ、私たちのことを祈るために天に昇っていないからでしょうか?しかし、空が一番、暗くなった時に、主は戻ってこられます。



11月12日

すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく…』と書いてある。』【マタイ 4:3-4】

"しかし(イエスは答えて)"—主の答えはサタン問いかけと完全に反対のものでした。サタンは言葉巧みに誘惑しますが、主の方も相対する考えを持って反論します。『…と書いてある』、これが主が使う武器のひとつです。誘惑があったとき、それに抗うことで自分の身を守ることができるだけでなく、悪魔を去らせることもできます。しかし、時には完全に孤立無援の状態になってしまうこともあります。そんなときに神の言葉を言明することで、確実に相手を去らせることができるのです。神の言葉は精霊が使う剣です。その剣を振りかざせば闘いに勝つことができます。ただし、信仰とともに振りかざすことが絶対に必要です。神の言葉は、最高裁判所の判決のようなものです。



11月13日

それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおられるようになるためです。【ヨハネ 17:21】

簡単に言えば、一体とは神ご自身のことです。私たち全員が神の外にあるものをうち捨て、神の中に住み始めたら、私たちの中におられる神は一体となります。一体とは、神が私たちの中に絶対的な位置を占めているときのことを言います。一体とは、神のみがすべての中にあること、神がすべてを満たしている状態を言います。神の子供たちが神で満たされている時、彼らの間には調和が保たれます。現実には、サタンが働いて、ひとつの体としての私たちを引き裂こうと試みる時、私たちの中で意見を分裂させたり、対立させたりする必要はなく、ただ、私たちの中に不純物とか、神の立場を置き換えてしまう何かを混ぜるだけですむのです。例えて言うなら、人がコンクリートをこねているところを見たことがあるでしょうか？砂に粘土が混じってしまうと、セメントは硬く凝固してくれません。サタンが私たちの体としての一体性を突き崩すためには、小さな泥の塊りを広げるだけですむのです。私たちの中の神の生活と相容れない塊りです。これだけで、ひとつの体であった私たちは分裂してしまいます。

私たちに必要なものはただひとつ、心の内で神と向かい合い、十字架と精霊の力で私たちをきよめ、純粋なものとしていただくことです。

11月14日

わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつける【ヘブル 8:10】

ここに、新しい契約と古い契約の違いがあります。古い契約においては、律法は、石版に刻み付けられ、人間の外に置かれたものでした。新しい契約では、私たちの精神の中におかれ、私たちの心に刻まれています。外にあり、石版に刻まれているものとは、文字に過ぎません(第2コリント 3:6)。それでは、私たちの中にあり、心に刻まれた律法とは、なんでしょうか？この律法の性質はどのようなものでしょうか？神の言葉から分かります。私たちの精神の中に入り、心に刻み付けることのできる律法は、文字ではなく、いのちです。個々の律法はいのちではないかもしれませんが、すべての命がそれぞれの律法を持っています。神が私たちに置いた律法は、神がくれたいのちであり、『キ

リスト・イエスにあるいのちの御霊の原理(ローマ 8:2)』でさえあるのです。

11月15日

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。【ピリピ 4:6】

なんの思い煩いもないキリスト者というのは、私はほとんど会ったことがありません。ほとんどすべての方はたくさんの心配事で押し潰されそうになっています。あるところに7人の息子を持つ母親がいました。この母親はこう述べました、『私はこの息子たち全部が無事に成長して、救われるまで、皆のことが心配で心配で、死にそうなほどです。』ある兄弟がこの人に心配することは間違っている、実のところ心配は罪であると言ったところ、この女性はこう言い返しました、『母親ならば、自分の子供のことで心配するのは当たり前です。心配しなければその方が罪です。』そこでこの兄弟は、彼女にピリピ書 4章 6~7節を見せました。それでも、彼女はここに書いてあるような心配は、おそらく自分が持っているような心配事とは違う類のものだと考えました。この人の考えでは、妻が夫のことを心配し、親が自分の子供のことを心配し、商人が自分の商売のことで思い煩うのは当然のことだったからです。しかし、私たちは聖書がきっぱりと、『何も思い煩わないで』を言っていることをはっきりと覚えましょう。絶対に！

11月16日

ただし、この種のもは、祈りと断食によらなければ出て行きません。【マタイ 17:21】

ここで主は信仰を持った後の祈りを示されています。信仰を一度、持っただけならばもう祈る必要はなく、賛美するだけでよいから、とよく言われます。より多くの祈りが捧げられると、信仰が揺るがされるからというのです。これは、神に頼むことに関して言えば確かにそのとおりです。しかし、悪霊に対しては、そうではありません。進行が与えられた後も、絶え間ない祈りが必要とされます。悪霊を追い出すための信仰を受けたものとして、さらに踏み込んで、それをどう使うかを尋ねるべきです。ルカ 18章に出てくるやもめの女は、祈りに励みつつも、相手に対する裁きを要求しています。この相手とは、もちろんサタンです。私たちが人生を通じ、祈りを武器として攻撃しなければならぬ敵です。信仰を受けた者には、祈りと断食がなければなりません。この二つは心構えであると同時に、行動の規範でもあり、神への依存と自己否定がそこに現れます。

11月17日

ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか【ルカ 23:40】

初めは主イエスを激しく罵っていたこの強盗が、急に変わり、キリストを信じるようになったのはなぜなのか、確かなことはわかりません。しかし、それはルカ伝 23:34 に記録されたキリストの尊い祈り、『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです』、このおかげだったのではないのでしょうか。この言葉が罪人の心に触れたに違いありません。これほどの慈悲、これほどの愛、これほどの寛大、これほどに満ち満ちた優しさが、この男のかたくなな魂を動かし、偏見を砕き、そして、その捻じ曲がった心を和ませたに違いありません。この祈りによって、彼は、十字架にかけられている方が真にかけがえのないただ一人のキリスト、神の子であることを知ったのです。ローマ人の十字架のために彼はキリストを激しく罵りましたが、キリストの十字架のおかげで悔い改め、救い主を信じることになりました。律法と刑罰は魂を救えません。優しさと愛が人に涙を流させ、かたくなだった罪びとを悔い改めへと向かわせ、神の慈悲へと近づけるのです。



11月18日

しかし、彼らにつまずきを与えないために、湖に行って釣りをして、最初に釣れた魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい【マタイ 17:27】

『つまずきを与える』。原則に基づいて言えば、ある人物に触れるものはすべて、神聖さ、神の働きは決して妥協を許さず、従ってこの分野では便宜と言うものはありえません。もっと小さな事では、他者と波風を立てないように、主に倣うべきです。ここに、主の大きい知恵が示されます。主は優しくとも、弱くはなく、へりくだっていても、ためらうことはありません。多くの事柄で、主の他の人々のために陣地を広げてくれます。

『わたしとあなた』。この順番が大切です。なぜ、『わたしたち』と言わないのでしょうか？主は私たちと同じレベルに立つことはできないからです。主は初穂であり、神の一人子で

す。私たちは子供の一人です。自分の栄光を隠し、主は讃えます。やさしさを持って、主はペテロを讃えます。主は、確実に私たちの必要なものすべてを与えてくれます。

11月19日

しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた【マタイ 2:22】

神の導きに関して言えば、このマタイの第2章は、以下の要因について述べています。すなわち、聖書の知識、天からの黙示、人間の常識、そして、信仰、待つこと、および従順です。

私たちは神の導きのただ中にあっても、常識をもって考える必要があります。神はヨセフに対し、ただイスラエルの土地に戻ると言う命令のみを課し、その土地にどこに住むべきかは言いませんでした。ヨセフがエルサレムを通っていたなら、大変なことになっていたでしょう。彼は常識に沿って考えたので思いとどまり、このおかげで神は彼を導くことができたのです。



11月20日

わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です【ヨハネ 15:5】

かつて、ある兄弟は勝利を求めするために大変な努力をしました。彼は、ずっと聞き続けたのに、神は勝利を与えてくれなかったことを認めました。ある日、彼はヨハネ 15章5節のキリストの言葉を読みました、『わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です』。彼はすぐに光を見ました。彼はひざまずき、こう祈りました、『私は世界中でもっとも愚かな者です。私が捜し求めていた勝利の生活は、もう持っていました。あなたがたは枝です、とイエス様は言われました。あなた方は枝になるとはいいませんでした』。何年にも渡って彼は自分が枝のように樹の一部に加えられるよう頼み続けてきましたが、すでに自分は樹につながった枝であることを知りませんでした。このときまで、彼は神の黙示を受けおらず、本物の信仰もありませんでした。後にこの人はこう言いました、『私は打ち負かされたので、勝利を探した

が、勝利は与えられなかった。しかし、信じた日に、勝利は来た』

11月21日

この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません【ルカ 7:47】

私たちはどうすれば主を愛せるでしょうか？私たちの罪がどのように許されたのかを思い出せば、主を愛さずにはいられないでしょう。十字架が私たちの心を動かさなかった日があったとしたら、その日こそ私たちは地に墮ちたのです。エバン・ロバーツは、自分の心が十字架に動かされなかったことに気付いたとき、大いに泣きました。それが数ヶ月に渡って続いた後、神は彼を再び動かしました。その後でウェールズにおいて大きなバイバルが続きました。これは、世界で誰も見たこともなかったような、もっともすばらしい精神の再生でした。

この女は主の足を自分の涙で洗い、髪で拭い、唇で接吻しましたが、このようなことが何故、起こったのでしょうか？それは彼女が、すべての自分の罪がどうして許されたかを思い出したからです。私たちも、常に十字架の元に立ち続けましょう。そして、いつの日か、私たちの心が今より何百倍も強くなったとしても、常に主によって私たちの罪が許された事実を覚えるようにしましょう。

11月22日

これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし…【ヘブル 2:14】

主イエス様は、ご自身もヨルダン川で洗礼を受けられました。主が洗礼を受ける水の中に下りて行ったのは、死を示すものです。主が水の中から出てこられたのは復活を現しています。主は復活の力を通じて死に打ち勝つのです。私たちが知るサタンの最大の力は死、そのものです（第1コリント 15:26 を見てください）。私にできることは何でもしてみるのがよい、主は敵にこう述べて挑んでいるかのようです。実際に、サタンはあらゆる力を使ってきます。しかし、神には復活の力があります。サタンは主を完全に死なせようと切望していますが、主は死によって触れることも捉えることもできない命を持っています。主は、言うなれば、乾いた土地の上を進んでいかれます！主の復活を離れては、死に打ち勝つ力はどこにもありません。新たな創生のときに私たちが受け取る命は、この復活の命そのものです。そして、復活の命の力は、すべての死を追い払ってしまします。

11月23日

私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました【Ⅱテモテ 4:7】

私たちが最後まで競争を走りぬく走者でありますように。走っている途中、人間の手による敵対、誤解や拒絶を受けることによって、怪我をするかもしれませんが、それでも、私たちは心を奮い立たせて主イエス様のために走り続けなければなりません。競争において、人から最大の賞賛を受けるのは誰でしょうか？怪我をしても、一等賞を取るまで走り続ける人ではないでしょうか？ですから、私たちが怪我をしても、苦しみを受けても、負けたように見えたとしても、それは問題にははいけません。それでも、立ち上がって走ることが私たちにとって最善のことなのです。道に在る間は何をしても、価値を認められないことを覚えておきましょう。コースの終点でのみ、判定がくだされるのです。ですから、どんな理由であっても、競争を放棄しないようにしましょう。衰えて投げ出してしまったり、やる気を失わないようにしましょう。反対に、私たちはイエス様のほうに向かい、最後の地点まで走り抜けなければなりません。

11月24日

私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように【詩篇 19:14】

心こそが主要な問題です。口から外に出る言葉が正しいか否かは、重要な問題ではありません。外に向けた態度の正しさも同じです。本当の問題は心の中の目的にあります。心の中の考えや意図は無視してはならない問題です。このために、ダビデは、口から出る言葉だけでなく、彼の心の思いが神に受け入れられるようにと祈っているのです。彼の祈りは、自分の内なる願望を神が受けて入れてくれるように、と言うものでした。だからこそ、パウロはダビデが神の御心にかなう者であったことを証したのです（使徒 13章）。

神御自身の御心にかなうものとはどのような人間でしょうか？それは神が自分の心に触れることを許す人です。もし人が、神に心に触れることを許さなければ、神の御心にかなうものとなることは決してありません。

11月25日

あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい【マタイ 11:29】

『あなたのくびきを負います』、神にこのように言う時、平安が訪れます。神が今日、私たちを導いているのは、日々の生活の小さな出来事において、また、人生の大きな問題においても、私たちが神のくびきを負うことを願えるように、ということです。職場の仲間と働くことを苦痛と感じている労働者、義理の親と一緒に生活に耐え難い姉妹、同僚と一緒に働くのが嫌でたまらない雇われ人、先生や他の学生との関係にくじけそうになっている学生。これらは背負わなければならないくびきです。もちろん、あなた方はそれが嫌でならない。それを捨ててしまえたら、または、それがあなたから離れてくれたらどんなに良いかと願っています。しかし、どうか分かってください。これは神があなたに下さったくびきなのです。神があなたに分け与えた取り分なのです。神はあなたにこの環境に従って欲しいのです。それが、あなたにとって最良のことだからです。

11月26日

今にもペリシテ人がギルガルの私のところまで来ようとしているのに、私は、まだ主に嘆願していないと考え、思い切って全焼のいけにえをささげたのです【1サムエル 13:12】

サウロは、あまりに熱意が強すぎ、生贄を捧げることを切望し、性急に祈りすぎたために神に拒絶されました。彼の行動の目的は実に多岐にわたるものでした。それにもかかわらず、神は、しばらくのうちに、み心にかなう者を求めて探し出し、ご自身の民を支配する王子として任命しました。主が願う者とは、性急に過ぎて待てない者ではありません。



私たちにその選択が任されているのなら、疑うことなくサウロのような誰かに心を傾けるでしょう。彼が並外れた男だからです。彼は事実、他の人々より、ひとときわ際立っていました。しかし、神は並外れた人間を求めてはおられません。ただ、ご自身のみ心にかなう者を求めておられます。私たちが主に使える目的が、偉大なことを成し遂げて自分や他の者を喜ばせることにはなく、み心に触れて神を喜ばせることでありますように。このような人々だけが、神は用いられます。神はそのようなものを探しておられます。

11月27日

もし死ねば、豊かな実を結びます【ヨハネ 12:24】

この一粒の麦が結ぶ実はさまざまなものです。イエス様は、『豊かな実』と言われました。いわば、多くの粒ということです。私たちが自分の人生に縛り付けられている間は、持てる力のすべてを出し切れれば、一人か二人は獲得できるかも知れません(ですので、ここで誰一人として救うことはできないとは言いつもりはありません)。しかし、もし私たちが一粒の麦が死ぬように死ねば、『豊かな実』を結ぶことでしょ。どこへ行こうと、そして時には一つ二つの言葉をただ投げかけるだけで、人々は救われ、啓発されます。ですから、豊かに実を結ぶように期待しようではありませんか。

11月28日

その七度目に祭司たちが角笛を吹いたとき、ヨシュアは民に言った。「時の声をあげなさい。主がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ【ヨシュア記 6:16】

はじめにキリストにあるときに得られる豊かさを見なければいけません。これは信仰の門を入るということです。ただし、入るにあたっては、新しい場所に立ち、どのような誘惑があなたのいく手であろうと、プライド、嫉妬などなんでもあれ、それに立ち向かわなければなりません。信仰を持って立ち、すべての誘惑は断ち切られることを宣言してください。



そして、必ずそれは断ち切られます。ハレルヤ！イスラエルの子供たちは、エリコの街を取り囲み、エリコの城壁が崩れ落ちるまで、信仰の言葉を叫び続けました。人間的な見方をすれば、こんな行動はただばかげています。しかし彼らが実際に叫んだとき、エリコの街は陥落したのです。

11月29日

また彼は、純金で燭台を作った【出エジプト記 37:17】

聖なる場所にあるものはすべて、金でできていました。あまりに、輝いていたので、司祭が指先で触れただけで、すぐに指紋の跡が現れました。聖なる場所に来て仕える意思がないのなら、何ひとつ気にすることは無いでしょう。しかし、誰であろうと、仕えるために聖なる場所に入れば、本当の姿が直ちに表に現れてしまいます。誰でも、自分の罪と穢れた姿を見ずにはられません。自分が何者であるか告白しなければなりません。そこにあったものはすべて、神聖であったからです。

神に仕えるときはいつでも、私たちの本当の姿が曝け出されてしまいます。自分自信の姿を真に知るためには、神への奉仕を通してそれを知る必要があります。神への奉仕を実行する中で、自分の人生についてより多く知るほど、自分たちが神に仕えていること、自分たちのしていることが真に神への奉仕であることに、より強い確信が持てるようになります。このようにはっきり自覚できる者こそが、真に神に仕えるものです。

11月30日

イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである【黙示録 1:1】

黙示録にあるすべての未来の出来事を記録するに当たって、ヨハネはそれがいつ、どのように起こるのかを知らせることを目的とせず、ただ私たちに、イエス・キリストが王国を支配することを認めさせようとした。その王国ではイエス・キリストが王であること、黙示録が私たちに教えているのはそれです。私たちは主を救い主として知っていますが、それだけで不十分です。主が王であられることも知らなければなりません。主の厳しさだけでなく、その愛も知らなければいけません。はっきり理解しましょう。黙示録の目的は、私たちが、イエス・キリストのことをよりよく知ること、注意深く、主に間近にお会いする日に備えておけるようにすることです。

